

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

校訓: 自律・進取・友愛

○自己・他者・地域・国際社会などの多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに調和のとれた課題解決を図ることができる資質能力の育成を図る学校。
○英語・日本語など複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重しながら協働して合意形成を図ることができる資質能力の育成を図る学校。
○自国の文化や歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会の実現に向けて主体的に考えて行動できる人間の育成を図る学校。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会における横断的・総合的な学習を通して、自己の在り、えながら、論理的に課題を発見し解決できるようにするために、以下の資質・能力を育成する。
(1) 学術的・社会的意義のあるテーマを設定し、探Q活動の基盤となる課題研究の手法を理解する探Q力。先行研究や著作物などの情報を踏まえたうえで、既存の前提を問う「問い」を設定する課題設定力。
(2) 主体的に課題を設定し、仮説を検証するに論理的に考察を深め、口頭発表し、論文を作成するコミュニケーション能力や多面的思考力。情報と目的に応じて適切に分析するとともに、考察に向けてその情報を多面的に活用する情報処理能力・計画実行力。
(3) 地球規模の課題を自分事として捉え、国際的な視野で問題を解決しようとする課題解決力。妥当な評価が可能な目標や、環境的な制約のある中で実現可能な問いや仮説をたてることのできる課題発見力。

総合的な探究の時間の学習評価

・探Qの意義づけ、よい調査計画(知識・技能)
・データ活用力、科学的表現力(思考力・判断力・表現力)
・課題の具現化、結果からの考察(主体的に学習に取り組む態度・人間性など)
各探Qのサイクルごとにルーブリックおよび記述によるポートフォリオ作成による自己評価を実施
年度末に、これらをもとに評価文言を決定する。

生徒の実態

- ・基礎学力が定着している生徒が多い。
・学校行事などを生徒主体で行うことができる。
・人間関係構築力の弱さから、悩みを抱える生徒や学習面の不安から心と体の不調和を抱えている生徒が一定数いる。
・自己肯定感が不足している生徒が一定数いる。
・依存的受動的な学習態度の傾向がある。
・穏やかで優しくお宮理がある生徒が多い。
・発信力や計画力に欠ける部分がある。
・多様な意見を受け止めることができる。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・面談を重視した心の教育と相談活動の充実(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携)
・教員間での情報共有
・生徒の可能性を引き出す進路指導
・規範意識と社会性を育成する生徒指導
・授業研究委員会等の校内委員会の充実
・生徒間の円滑な人間関係づくりの支援

目指す生徒の姿

- 自己・他者・地域・国際社会などの多角的な視点を持ち、諸問題に対する幅広い関心と理解のもとに調和のとれた課題解決を図ることができる生徒。
○英語・日本語など複数の言語で議論するコミュニケーション能力を磨き、他者の意見を尊重しながら協働して合意形成を図ることができる生徒。
○自国の文化や歴史を尊びアイデンティティを確立し、持続可能な共生社会の実現に向けて主体的に考えて行動できる生徒。

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

- 【1学年 探Q基礎】
・探Q活動の梨式・技能を習得する。
・自ら問いを立て、課題解決のための資質・能力を身につける。
・グローバルな視野を持ち行動できる資質・能力を身につける。
・社会と自己の関わりを考える自身のキャリアについて考える。
【2学年 普通科 探Q】
・1年間の課題研究に取り組み、論理的科学的思考力を身に付ける。
・研究の成果や考察を的確に伝えるための表現力や情報発信力を身に付ける。
【2学年 国際科 探Q】
・1年間の課題研究に取り組み、論理的科学的思考力を身に付ける。
・研究の成果や考察を的確に伝えるための表現力や情報発信力を身に付ける。
・海外スタディツアーにおいて国際理解・異文化理解を深める。
【3学年 普通科、国際科 探Q】
・情報化社会に向けた課題を解決するための方法を考えて、行動する。
・探究活動を通して身に付けた力を自分の総合的な学力として熟成させる。
・自己肯定感を育むとともに、興味関心や適性をもとに進路の実現を図る。

学習活動、指導方法等

- 【1学年 探Q基礎】
・外部や1学年と連携し、これまでの経験を用いて生徒主体の探Q基礎の運営およびプログラムを確立する。
・探Q基礎と教科(国語・地歴公民・英語・家庭・情報・美術)のクロスカリキュラム授業を実施し、教科横断的な学習の充実を図る。
【2学年 普通科 探Q】
・2学年と連携し、クラスを越えた普通科探Qの内容の充実に努める。
【2学年 国際科 探Q】
・自ら課題を設定し、各ゼミに分かれて主体的協働的に課題研究に取り組み、筑波大学等と高大連携を強化して研究内容のさらなる充実を図る。
・研究の成果を論文にまとめるとともに、探Q成果発表会で効果的に発表する。
・マレーシア工科大学の学生と、英語によるディスカッションや模擬国連を行うことで、国際理解・異文化理解を深める。
【3学年 普通科、国際科 探Q】
・探究活動を通して身に付けた力をもとに、予測不可能な世の中に対応できる人間となるべく自己の進路実現を図るために、主体的かつ協働的な学習に取り組む。

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

- ・国際科・各教科・各学年・各分掌や、他の機関(学校・研究所等)との連携・協力のもと、県の「チャレンジ・プロジェクト」事業を活用して「自走する生徒」の育成を図る。
・探究を深めるため、茗溪学園、並木中等教育学校、土浦第一高校との合同探究交流会を行う。
・SDGs活動で地域の小中学校との交流を活発にする。
・探Q活動での筑波大学院生の指導員などを通して筑波大学との連携の充実を図る。
・東京大学宇野ゼミとの連携を通して探究活動の充実を図る。
・研究学園都市つくばの地を活用した探Q活動の充実を図る。